

市政執行方針

明るい未来の実現に向かって

2月26日から開催された市議会定例会では、工藤市長の市政執行方針演説や一般行政報告を行ったほか、3月補正予算及び新年度当初予算の審議が行われました。
※内容は一部を要約して掲載しています。全文は、市ホームページをご覧ください。



はじめに

これまで、「人口減少」、「人材確保」、「地域医療」の課題をそれぞれ克服するため、3人の対策監を配置して対応してきたところです。これらについての取組は、今後も変わりありませんが、令和6年度は、いよいよ市役所新庁舎本体の工事が目に見える形で進み、秋には庁舎の外観が見えてくる年でもあり、時代の要請でもある「DX」や「ゼロカーボン」の推進にも、さらに重点的に取り組みます。

②安らぎの空間に笑顔あふれる基盤づくり

と稚内大谷高等学校への支援を継続します。

◆稚内空港

全国的に、昨年以上に高まっている観光需要を的確に捉え、令和6年度も、運航会社と連携しながら、就航路線の強化・拡充の働きかけを含め、利用促進に努めるとともに、コロナ禍により未着手の空港ビルの建て替えについても、運営会社の様々な状況を見極めながら、連携を図ります。

◆道路整備

国道40号の高規格化に関しては、稚内一各寄間の一日も早い全面高速化を目標に、沿線自治体とともに、その実現を目指します。また、稚内空港や稚内港の高度利用に資する道路整備の方向性についても、地元経済界と連携しながら検討を進めます。

◆立地適正化計画

中央地区においては、令和6年度に本体工事が本格化する市役所新庁舎の整備と合わせ、立地適正化計画に適合した都市軸の形成に取り組みます。また、南地区や北地区については、それぞれ民間の方々の意見を充分に尊重し、これらも立地適正化計画との整合性を図りながら、同様に進めます。

◆水産業

取り巻く課題解決のため、漁業者が行うウニやナマコの資源育成に対する支援を継続します。また、漁業者自らが行う資源回復の取組について、水産技術や資格の取得に対する支援や、老朽化した漁港施設などの長寿命化に継続的に取り組むことで、漁業生産の安定化を図ります。

◆JR宗谷本線

JR宗谷本線は、国土軸を形成する重要な幹線交通網であり、引き続き、運営主体であるJR北海道はもとより、

◆稚内港

カーボンニュートラルポート形成に向けた「脱炭素化推進計画」の策定を進め、稚内港におけるブルーカーボン生態系の活用や水素の製造などを視野に、関係者の意見を尊重しながら、必要な整備の方向性を検討します。

◆地域防災力の強化

元日に発生した能登半島地震を教訓として、市民の皆さんと認識を共有しながら、地域の自主防災組織の拡充や地域ごとの避難計画の策定を進め、市全体の防災力の強化に努めます。

◆酪農業

市内農家からの預託希望にこたえられる体制整備のため、「樺岡第2地区道営公共牧場整備事業」が進められ、令和6年度は草地の整備が本格化します。

◆上下水道

災害に強く、安全安心な上下水道施設の整備を計画的に進めるため、引き続き、萩ヶ丘浄水場の耐震化を実施します。

◆酪農業

また、通知地区で進められている「国営総合農地防災事業」の事業促進や、「畜産クラスター事業」など、農業者のニーズに合わせた各事業の予算確保について、国や北海道に働きかけ、農業生産基盤の整備を通じて、生産性や収益性の向上を図ります。



南稚内駅に到着した豪華観光列車「ザ・ロイヤルエクスプレス」歓迎の様子

また、宗谷港の整備に関しては、水産物の衛生管理

特に中央地区で大規模な道路冠水が発生したことを受け、平成30年度から進めて

いる雨水幹線整備を継続するほか、大黒地区や恵比須地区においても、排水調査に着手します。